

令和5年度 第1回 生駒市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

日 時	令和5年8月21日（月） 14時00分～
場 所	生駒市コミュニティセンター 402・403会議室
出席委員	清水会長 吉岡副会長 岩本委員、山田委員、畠山委員、山本委員 谷猪委員、古川委員、伊藤委員、崎山委員、加藤委員、竹内委員
事務局	鍬田教育こども部長、松田教育こども部次長 子育て支援総合センター：角井所長、土井田こども政策係員、城野こども政策係員 こどもサポートセンター：若狭所長 幼保こども園課：大畑課長、小林課長補佐、喜多指導主事、湯川指導主事、 矢田幼稚園係長、春野保育園係長 こども総務課：武元課長 健康課：市川次長
会議の公開	公開
傍聴者	1名

1. 開会

2. 委員紹介

3. 案件

- (1) 令和4年度事業実績報告について
- (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画について

- (1) 令和4年度事業報告について、事務局から説明  
(委員からの意見・質問)

委員

事業7～10について。

ファミリー・サポート・センター事業が計画値よりも実績値を下回っている一方、一時預かり事業は幼稚園型なら計画値を非常に上回っている。私もこの4月から復職を始めて、預け先が欲しい。ファミリー・サポート・センター事業の利用は勇気がいる。一時預かりについては非常に多くの方が利用されているのは、使いやすい・幼稚園の延長という所が大きい。

病児保育の実際の体験談だが、夫婦共働きで、こどもが3人もいると誰かしら熱を出す。たけつなクリニックのバンビに登録をしたが、時間が8:30からとなっている。保育園なら体調不良時対応型で、もしなにかあったときに迎えに行くまで預かってもらえる。たけつなの8:30からだ、夫婦共に出勤時間なので利用しにくい。時間帯を改善してもらえると、子育て世帯がより利用しやすいのではないかな。

事務局

一時預かりについて、まさに幼稚園型が急激に増えている。当初の計画値の段階では幼稚園の利用を見込んでいなかったのが計画値が低くなっている。令和4年度から夏休みの幼稚園利用が始まったことが利用増の原因ではないか。今年度は冬休みや春休みも実施して、時間の延

長も今年度中に実施する見込み。現行16:30までのところ17:00までにする予定なので、利用件数が増えるのではないかと。

病児については事業者にやってもらうところなので、市からの要請は難しい。たけつな小児科クリニックについては送迎サービスをされていて、迎えに行ってもらえるところが利点と考えている。時間についても今後事業者と相談しながら検討していきたい。

#### 事務局

ファミリー・サポート・事業については、計画値の立て方がコロナ以前なのが大きい。ファミリー・サポート・事業は有償ボランティアで1対1の利用。基本は援助会員宅での預かりとなる。利用会員は増えているが、援助会員の担い手確保が考えどころ。

自治会の回覧版・掲示板・幼稚園保育園にもチラシをしたり、すぐメール配信をするなどしたら、すきま時間のお手伝いをしてくださるボランティアが増えてきた。援助してほしい方が増えてきているので、どうしたら援助会員が増やせるか種々考えている。良い募集の仕方があれば、お知恵を貸していただきたい。

#### 委員

病児保育について。働いている方にとっては一番必要とする場所。現在の数から増える可能性はあるのか。また、時間帯について、市としての方針は決めているのか。実態は。

#### 事務局

病児保育はできれば保育園と同じ時間に運営するよう、事業開始の際にはお願いしているが、あくまでお願いの形になってしまう。あとは事業者の人員確保もあり、調整しながらになる。病児型については計画の冊子 27 ページで病児保育がうたわれており、確保策の考え方を示している。病児型 2 か所、体調不良児対応型 8 か所の確保が可能として 2 期計画を書いている。いま特段増やすことは考えていないが、実情に応じたい。例えば阪奈中央の利用が減ってきていて、その理由は小児科の先生がいないという人材の事情と聞いている。そういった事情を勘案し、第 3 期でニーズ調査をしながら考えていきたい。

#### 委員

今後を考えて第 3 期の計画を立てていただきたい。受ける事業者の人材に絡む部分もあるだろうが、よろしくおねがいしたい。

#### 委員

サンライズキッズの開園について、当事業所から距離があるものの、年度末に連携園になってもらえないかと打診された。

3号認定を12人増やすことは、2歳児から3歳児になる近くの園にと見込んで建てているのだろうが、近隣の園に電話しても断られている。市の協力はどのようなものか。設立にあたって、実現可能性を考慮していたのか。

#### 事務局

去年の10月に公募で指定された。連携園を確保するという事業所からの話を受けて決定した。ただ、なかなか年内に決まらず、市も情報収集をしていた所。市も連携園の難しさは実感としてあったので、色々調整をしながらあたっていた。幼稚園にも話をしたと聞いている。年度切り替えのタイミングで連携施設を提示できないと保護者の不安も招くので、

現状は事業者主導だが、どうしてもなら公立園で連携することになる。ただ、公立も南こども園と生駒こども園・ピュア保育園で連携園を引き受けた。中地域ではまだ連携園を確保できていない。小規模をやみくもに確保するのではなく、分園と言う形での公募を考えていく。

#### 委員

年長の娘と年少の息子がいるが、幼児クラスにかかったタイミングで、先生1人あたりの子どもの数が多くなり、先生の負担感が参観等で伺える。

大阪府から生駒市に転入したい人は知り合いで多くいるが、幼児クラスの空きがないと悩んでいる。幼児以降の人数に規模が広がったらいいと思う。

事業4について、1人目のときに産後1～2ヵ月が一番不安を感じたが、市の職員に来ていただくのが2～3か月ごろ。電話だけでも欲しい。父親にもヒアリングをしてもらえれば、両親以外の大人の存在が心強い。1～2ヵ月は病院のサポートもあるが、市も身近な機関なので、なにかアプローチしていただけると心強いと感じる。

#### 事務局

こんにちは赤ちゃんが4か月までの人を全戸訪問。4月からは妊婦さんに電話することもしている。面談はお父さんの方はいままであまりしていなかった。お会いする時がどうしても平日なので、お母さんに会うのが多いのか。パパ教室の時に面談をしたり、訪問の時にできるだけご両親と実施することも考えていきたい。

#### 委員

保育士はどこの保育園でも足りていない。0歳児は保育士1人に対して3人で、0歳児を募集しても来ない。0歳児で育児休暇を取っている方が6人ぐらいいるが、3歳まで育休を取得できるので、0歳で入れなくてもいいという方が多い。0歳児を担当する保育士がいなくても、一時保育や病児保育の時間を延ばすと人員を増やさないといけない。稼働率100%でない園がどこにでもあって、保育士が足りない園もどこにでもある。援助が必要な児も増えている。1人1人に丁寧に関わっているが、従来には無かったような、園の部屋に置き去りにしていた、という批判が多くなってきて、保育士はピリピリしている。それを防止するために監視カメラを使う園もあるが、今度は子どもの着替えを映すのかという批判もある。現場を見ると、保育士の方は休憩もちゃんと取れていない状況のように感じる。

#### 委員

事業12の教材・行事費の適用が1人となっているが、適用者が減っている傾向にあるのはなぜか。

#### 事務局

生活保護を受給されているような収入が厳しい方を対象としているので、傾向というものは無い。令和5年度は従来のようになる可能性もある

#### 委員

非常に困っている方は結構いらっしゃる。基準は生活保護ということだが、そういう方が支援の存在を知っているような周知方法が出来ているのか。こういった工夫をされているのか。希望したいが知らなかったという方はいらっしゃらないのか。

事務局

生活保護世帯の方全員に案内を送っている。周知が漏れているわけではない。

事務局

福祉部門の中でも行き届いていない方に届かせることは大きなテーマ。今年は重層的支援体制という形で、どこにいても連携して様々な問題を解決する試みを行う。そういったことも一歩一歩進めていく。

委員

放課後児童クラブのことで

生駒市の学童は、年度が始まると月々の利用ができない。4月～翌3月まで。夏休みや冬休みなどの長期休暇中のみの利用はあるのか。小2と中1の子どもがいるが、学校に行っている間働いていて、夏休み中は実家の母に預けていく。実家の親も高齢になり、体力もついていかない様子。実家が近いから預けられると思うこともあるだろうが、そういうサービスも導入してもらいたい。

事務局

長期休暇時の児童クラブについて。学校に設置されてる分は定員の関係でやっていない。民間学童が7か所あり、そこでは長期休暇だけの利用も可能なので、問い合わせがあれば紹介をする。

通常の使い方ではないが、辞めてからまた利用を再開するのは可能なので、そういう使い方もあります。個別の相談も受けているので、こども総務課に来てほしい。

委員

これについても周知に問題があるかもしれないのでご検討ください。

委員

民間学童があることは私も知らなかった。親としては預け先があるのはありがたいが、子どもを園や企業に丸投げする風潮があるのではないか。自分たちが子どもだったとき、自分だけで留守番し、自分たちで考えることが多かった。親同士で預かりを融通し合うこともたびたびあった。

全部を学童や先生に丸投げする、頼り切るのは違うと感じている。

ただ、一方で、長期休暇時は給食がないので、朝昼を用意するのがなかなかの出費。夏限定、のような給付金を検討していただけるとありがたい。

事務局

非課税世帯やこども手当受給者については応援の給付金をさせてもらっている。物価高騰でお困りの世帯には実施しているので、該当する方は給食費等に充てていただければと思う。

事務局

給食費の無償化は国全体の議論となっている。1年ほど調査をする、という内容で国も掲載している。継続的に事業化していくのは市全体の財政を見ても難しいところ。議会でも財政負担が国からあれば無償化をしていくというように、様々な可能性を探っている。

## 委員

子どもにスポットというよりは、親にスポットがあたっていそう。

幼稚園として、お盆の預かり保育をしている。

8:00～15:00までの通常保育をしてから預かり保育をしている。保育士の疲弊が必ず出てきている。

保護者の支援と共に、保育士にもスポットを当ててほしい。保育士は強い意志のもとに仕事をされているが、昔なら幼稚園までにできている教育ができていないような子どもが多くなっている。そこも教えていくが、そうすると本来の幼児教育に手が回らなくなってしまっている。そこは幼稚園全体の悩み。

お子さんが病気になった時、保護者が有給を取れやすくして、病児保育の利用でなく、家庭での保育にシフトしていくのが今の社会には求められていると感じる。

## 委員

家庭教育とおっしゃっていたが、小学校でも同じように感じる。

宿題が家でできないのは先生のせい。子どもが理解できないのは先生の教え方の問題、と捉える親が多い。学校だけではなく、家庭でも教育をしていくべき。双方の立場もわかるので、協力していきたい。

事業11について、学童保育所の数が小学校数を上回っているのはなぜか。

## 事務局

小学校によっては2～3か所運営しているところがあり、すべての学童を加算しているので、小学校数より多くなっている。

## 委員

小学生低学年の学童利用は高いけれど、高学年の利用率は低いとのこと。外国ではこどもを1人置いていくのは犯罪、という国もある。そういった意味を考えると、子どもが学校を終わっても安全に過ごせる場所は絶対に必要。

経済的に塾に行けず学童にいくところもあるが、教育という観点では、学童も塾も取り残しなく教育できるようにならないか。

塾の事業者が学童に参入し、塾として学童を利用できるようにならないだろうか。

市が子育て世帯を転入させたいなら、公立小学校でも勉学をきちんと学べる仕組みを確立することで、強みになるのではないか。

## 事務局

学校現場では様々な生駒としての特色を生み出す取り組みをやっている。地域との連携や誰一人取り残さない教育、ICTに力を入れたり教育の分野でも注目を浴びている。各学校で頑張った結果だと思う。そういったことを一步一步積み重ねてアピールしていくのが大切。

## 委員

子どもがお世話になっていて、ありがたいが、小学校に上がったからは、「子どもも大きくなったし大丈夫だろう」と思われることに不安がある。生まれたときは生駒市から職員が訪問したり情報共有があった。家で当たり前にするようなことを市から教えてもらえるような機会が欲しい。

自分たちが自分たちでできるような支援があればいいのかなと思った。

コロナ禍での出産・通園を経験したが、幼児クラスでもマスクの着用を推奨されていた。子どもの発達にすごく危ないな、と感じている。どうして子どもがマスクしないといけないかを理解していないので、落ちたマスクを拾ったり、他人と交換したりしてしまう。家庭で、くしゃみする前にやる対応を教えていければよかったと思った。

家でできることを気づくきっかけがあるとありがたいと感じる。

## 委員

放課後児童クラブについて

子どもが6年生と2年生で、上の姉が民営を3年使っていて、楽しんで使っていた。

学童の利用者が増えている中で、学童の職員さんの質はどうなっているのか。学童支援員さんは給料が安い中で何かあれば保護者に責められる、などタフな現場だが、そのあたりどうか。

## 事務局

支援員の確保は苦労している。定員割れとまではしていない。

質に関しては処遇改善として、学童指導員の給与を3%月給上乘せの改善があった。生駒市では基本給に来年度から組み込む予定。待遇面の改善できるようにはしている。

研修についても行っている。指導員の資格取得の助成も行っており、かなり力を入れている。

学童が嫌になってやめるお子さんもいらっしゃるだろう。昔ならお互いさまで済む話がいさかになることも多々ある。そこは市も苦慮している。保護者会を組織されているので、顔の見える間柄を作ってトラブルに対応しやすいようにしてもらっている、ご理解いただきたい。

## 会長

それでは、本報告を受けることとします。

## (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画 について、事務局から説明

### (委員からの意見・質問)

#### 委員

地域の子育て支援に携わっていて、小学校より年齢が下がるが、最近利用者がすごく増えている。産休・育休の母父が増えてきている。たちの方でもイベントが企画されていて活気を感じる。子育て支援者からすると孫の子育て、という感覚。世代を超えて、家庭教育に助言できるようなことをさせていただいている。これからもたちの方にはがんばっていただきたい。

#### 委員

地域が重んじられている。健康課や子育て支援総合センターと連携し、情報を聞いて活動している。民生委員としては気になるご家庭を健康課に報告させてもらっている。

委員から就園前児童が多いという話を聞いたが、民生でも低年齢化で2～3歳までの参加がすごく多い。家庭教育支援チーム「たけのこ」があり、どうやったら保護者とつながれるか考えている。南地区でイベントをやるので、それも踏まえて子育て世帯にアプローチしていきたい。

## 事務局

地域で見守っていただきありがとうございます。かるがもの会にはたちの方でお世話になっている。最近はコロナが明けてきて、コロナまでの行くところがない状況から、どんどん来られる方が増えている。

家庭教育の話は、就園前のお子さんでもそうで、ご飯をちゃんと食べさせているのか、抱くこともむずかしいとった保護者が利用されることもあった。子育て支援総合センターの役割としては、子育てを支援し、家庭の中でできるように助言を行っている。最近は祖父母が孫を連れてきたり、平日に男性が来ることも多くなってきた。働き方が柔軟になっているのかもしれない。圧倒的に母親が連れてくることが多い現状は変わらないが、パパ教室などで父親の育児参加を促していきたい。

子育て支援総合センターとしてはペアレントトレーニングが数多く用意され、生駒市の特色なので、そういったものを利用していただきたい。

地域の子育てという目線からは、民生委員さんとの協力等からも子育て支援を考えていきたい。

## 委員

父親の育児参加はどんどん進めてほしい。私自身パパママ講座やパパ講座にフル参加して、その時に感じたことが生きている。参加者は子育てにわくわくしている前向きな方が多い。子どもと2人で過ごす中、コロナ禍では公園に連れて行くのも難しかった。「お父さんと〇〇に行った」という思い出は子どもが覚えていて、母親より父親への要求が多い。

市町村の計画にも、なにかしら父親の積極的な育児参加やお父さんが活躍できるようなことを盛り込んでいってほしい。

## 委員

地域子育て支援拠点で、みっきランドなどは生駒駅から距離があったので、ちどりを使っていった。子育てのプロに話を聞いてもらえてありがたい存在だった。新興住宅街なら親同士の友達を作りやすいが、いろんな形で母同士の友人関係を作りやすかったり、年上世代とも接点を持てるような仕組みがあればありがたい。

平日働いていることが多いので、土日に地域単位のイベントがあれば、普段出られない方も来やすいのかなと感じます。

## 委員

認可保育所と認可外保育の両方をやっている。子どもが好きだから幼稚園の先生になった、という方ばかりだが認可園では先生に対して子どもが何人というしぼりがある。排泄の学習などをしてほしいというニーズが高まっている。幼稚園としては教育をしたい。保育園は保護をする保育がメインになっている。両方を兼ね備えた働きができればいいと思う。子供の成長の過程でどうなっていくのか。年齢別の在り方を先生たちが把握しながらひっばっていただけるような人員を確保したい。

保育士の確保についても市に考えていただけたらと思っている。

## 事務局

地域交流について、父親向けの講座は引き続き実施しており、土日を中心に開催している。センター内や中保育園のサンデーひろばで父母両方が参加できるようにしている。

教育大綱にも男性の育児参加の項目がある。今後発表される子ども・子育て支援法に基づく基本方針次第だが、力を入れていき、ご協力をお願いしたい。

まちのえきということで、いろんなイベントをされる。地域同士の住民のつながりを深めるようなことをされる。

センターも自治会と協力したいし、多世代交流の場があればいいなと思うので、検討し、計画の際盛り込める部分は盛り込んでいきたい。

## 事務局

### 地域の件

公立幼稚園の園児数は減少。なばた幼稚園と俵口幼稚園ではコミュニティスクールをやっている。地域住民・保護者・教職員が入って、魅力ある取り組みができないかと話し合い、様々な取り組みをしている。保育経験のある保護者が、新しく園に入る保護者に情報を共有する場を設けたりといった取り組みをしています。

保育士の処遇改善・確保先について平成29年から「資格をいかそう相談会」として、現場にいない保育士免許取得者に対して、園長や副園長がブースを開き、具体的な相談ができる場を設けている。それが50人弱の雇用につながっている。保育園の園見学ツアーやインターンシップをしてもらう取り組みもやっている。保育士は初任給が低く、離職率が高い特徴があるので、市独自でサポート手当を実施している。今年度採用の方は来年度から補助を年10万円、3年間受けてもらえる。

会長 それでは、本説明を受けることとします。

## 4. その他

事務局から次回以降のスケジュールについて連絡

(閉会)